

国際公共政策研究センター  
主任研究員 神野 雅人

### アレクセイ・チェスナコフ氏週報(3/2/2011)

2010年9月のモスクワ出張時に面談し、ロシアの改革動向について詳細な説明を頂いたアレクセイ・チェスナコフ（Алексей Чеснаков）氏は、同氏が所長を務める政治動向センターのホームページに毎週「середине недели（週央にて）」と題するコラムを執筆している。これはロシアの政治動向について簡潔にまとめたうえで論評を加えたものである。この種のロシアのメディアは数少ないため今後適宜参照することとする。

#### 電子政府

月曜日に行われた大統領の国家近代化委員会では、近い将来ロシア国民全員に配布される電子カードに注目が集まった。「電子パスポート」導入の問題は、かなり前から技術的な問題と言うよりも政治的な問題となっていることを認めなくてはならない。電子パスポートは文書として必要なだけでなく、ロシアの未来にとっても必要なものである。

近年、政府機能や政府機関の執行行為は、市民生活の監督や厳格な規制のためというよりも、ユニークな公的サービスの提供として一般に認識されるようになってきた。これは民主国家においては極めて正常な見方である。

近代国家は、いかにして国民により良いサービスを迅速に提供するかという点に関心を払うべきである。これまでロシア国民は役所で普通の情報を得るために部署をたらい廻しにされてきた。そんな状況では生産性は上がるはずがない。もちろん電子化が常に未来に利益をもたらすとは限らないが、列に並ぶより生産性上昇に資することは間違いない。現代の技術について少しでも知っている人であれば、今日、納税や免許書類の提出は、技術的にいつでも国内のどこからでも行うことができることを知っている。

電子政府の問題は一方で技術的なものであり、他方、教育上の問題である。電子文書の導入を妨げているのは、電子的媒体に対する最低限の信頼性も持たない低レベル層の反発であることはもはや秘密でもなんでもない。その最も明らかな例が普通の銀行のカードで、未だ懐疑心を持っている国民が多い。

しかし、我々はもはやデジタル社会に足を踏み入れており、「偉大な兄弟」<sup>1</sup>が再び現れることを恐れることは、今の時代ではリール式のテープレコーダーに固執すると同様のアナクロニズムである。

## 中央のためのフォーラム

金曜日にブリヤンスクで与党統一ロシアの後援により中央連邦地域の発展会議が開催される。この会議は2010年から2011年にかけて開催される地域会議中最大で、かつ、恐らく最も難しい会議となるだろう。

他の地域と異なり、中央ロシアは旧ソビエト時代から経済及び市民生活の両面で発展の遅れた（より正確に言うとは許容できないほど遅れた）地域だった。その結果、地域住民は自分や子供の世代の未来に展望を持つことができなかった。旧ソビエト時代には、ウラル、シベリア、極東地域などで大規模な国家産業プロジェクトが行われたが、中央ロシアは取り残された。この状況を変えるには現在の発展方式を根本的に改め、新しい「ブレークスルー・プロジェクト」を興す必要がある。

## 中東

中東、北アフリカにおける最近の動乱は、世界の歴史が混乱の時期に入る前触れである。2011年2月以降、国際関係の変化、さらに一部の国家の解体も起こりうる。それが他国の政権の動揺、さらには崩壊につながることは避けられない。米国、ヨーロッパ、そしてロシアには十分な安全保障上の対応が求められる。中東諸国において政治情勢が悪化し、新たなパワーバランスが不安定化すると、大規模な地域紛争につながる可能性がある。

以上

---

<sup>1</sup> ジョージ・オーウェルの小説『1984年』に登場する独裁者。スターリンをモデルにしているといわれている。